

## 令和4年度 第1回学校運営協議会抄録

日時:令和4年6月28日(火)18:00～ 場所:本校 会議室

出席者:阿部(市適応指導教室)、大賀(日比中学校長)、清本(株式会社ドットワークス)、熊谷(岡山大学教授)、白髭(玉野備南高校長)、角田(後援会会長)、藤原(市商工観光課)、藤原(保護者代表)、東(玉野 SDGs みらいづくりセンター)、川崎(市教委学校教育課長補佐)、事務局:教頭、事務長、教務課長、進路課長

### 1. 開会(白髭)

本校は学び直しをしたい生徒が来ている。生徒のやる気をサポートできる志のある教職員と共に仕事ができる事を嬉しく思う。今年は授業の充実を目指している。学校ブログでも日々の授業や活動の様子を紹介しているので、ぜひ御覧ください。幸いである。



(熊谷委員は研究室からリモートによる参加)

### 2. 委嘱状交付 委任状の確認

### 3. 自己紹介

### 4. 会長・副会長の選出(これ以降の進行は角田会長による)

委員の互選により、会長には角田委員を、副会長には保護者代表の藤原委員を選出した。

### 5. 熊谷委員による基調講話(一部を抜粋) ～コミュニティスクール設置の意義～

AIの発展でアニメの世界が本当になり、異なる他者と最適の答えを出していく力が必要となってくる。そのためには学校の中だけでの教育では難しく、地域との連携は必然の流れである。

先進国では教育レベルが上がっても社会への関与が上がるわけではない。生徒が主体的に社会に参画していくために、連携によって意図的な仕掛けを作っていくことが大切である。漢方薬のようにじわりじわり効果が出るものである。継続的な取り組みにするためにもチームで動くことが必要である。担当者が代わっても地域の学校として有為な人材を育むためには学校運営協議会の組織が役に立つ。生徒は放っておいても育つ訳ではない。皆さんと熟慮と議論を重ねながら玉野備南高校に必要なものは何かを協議できる場にしてゆきたい。

【質問】レジリエンス(回復する力)を身に付けさせるためにはどうしたらよいだろうか。

【応答】困難な体験用意し、それを乗り越えた達成感が味わえるような仕掛けが有効である。

### 6. 学校説明

・R3年度学校評価アンケートについて、学校経営計画に対応した評価に改善したことを報告。

【アンケートの分析】…生徒は、全体的に学校の取組に対して高評価であった。保護者は、全体的に高評価であるが、中でも学校行事や教育相談、体験活動、感染症策に対する評価

が高い。教職員は、全体的にやや低下が見られる。生徒の既習事項の定着指導や Chromebook の活用に課題があるとの認識によるものと考えられる。

・学校経営目標・グランドデザインについて、具体的な校内の取組を説明。

【具体的な取組】…学習面では、「備南スタンダード」を基にけじめのある態度で授業に臨むこと、タブレット端末の活用推進、学び直しは、計算と漢字を中心に行うことが説明され、生徒指導面では、生活態度や交通、部活動、清掃活動を引き続き行うことが説明された。また、特別支援教育面では、教員相互に授業見学を随時行うことや1年生でスクールカウンセラーとの面談を実施していくことが説明された。

学校生活面では、9月に就職活動がしっかりできるように文化祭を12月に変更したことや進路指導の年間スケジュールについての説明がされた。

・組織編成について、学校要覧の組織図を基にして、協議会の位置付けや分掌業務の説明。

・三つの方針について、玉野市の方針を加味したスクールポリシーを説明。

・教育課程について、本年度入学生から新学習指導要領に沿った授業展開であることを説明。

【注目の教育活動】…「1年生の書道」、「キャリア探索」、「自立活動」、「キャリア基礎」など。

## 7. 意見聴取と協議(一部を抜粋)

(1)今年度の方針について →6の学校経営目標や組織編成、教育課程について承認を得た。

【委員 A】生徒の回復力の育成のため、困難を体験し達成する取組を考えていただきたい。

【委員 B】生徒と保護者の評価が高いところに、学校と家庭とのつながりを感じた。

【委員 C】学校の取組が理解できた。社会に出て必要になる力を子どもたちに付けさせてほしい。

【委員 D】様々な対応をしている学校の存在意義を感じた。地域全体でも育てていきたい。

【委員 E】社会に出てチームで動く時は、コミュニケーション力や自己管理能力は必要になるので、学校で育ててほしい。また挨拶・思いやりも大切だ。就職活動に向けてのスーツ着こなしでは協力できるかもしれない。

【委員 F】適応教室を卒業した生徒の成長が感じられた。「いいねボード」等で相手の親切を称えあう人間関係が校内に浸透しているようだ。

←【事務局】通級指導について、コミュニケーションをしっかりとることを重視している。社会生活を念頭にATMの使い方、公共交通機関利用などを実地で体験している。

【委員 G】困難体験を達成できるためのさじ加減は、誰かの助けがあればできるという態勢によって可能である。生徒にとっては、少し先にいる発達したモデルの先輩と触れ合う機会を持たせられると動機付けになる。学校側から地域の力を貸して欲しいという項目があれば要望を出していけば具体的に進めていくことができると思う。

【委員 H】球技大会や臥竜祭で縦割りのグループを作る取組をしてもよいのではないかと。

(2)3・4修制については時間切れのため、今回は意見交換ができなかった。

(3)その他

8. 事務連絡 今後の予定について、学校運営協議会は年3回(7月、11月、2月)開催予定ほか。